



日本ガイシ株式会社
グリーンファイナンス・フレームワーク

2023年12月



1. はじめに

1.1 発行体概要

当社は1919年に社会の近代化を支える「特別高圧がいし」の国産化のために誕生しました。創立当時は、日本に電気が普及し始めた時期で、高電圧に耐える「がいし」は輸入品に頼っていました。「国家への奉仕として、がいしを国産化しなければならない」との使命から、一片のアメリカ製がいしを手掛かりに高圧がいしの研究開発が始められました。これが発端となって日本ガイシが設立され、暮らしや産業の発展にともなう電力の需要増大に応え、超高圧・超高強度がいしを次々と開発してきました。今では、世界一のがいしメーカーとして、世界の電力供給を支えています。磁器がいしの生産で培った技術力は、次世代インフラを支える世界初の大容量蓄電池や環境課題に応える自動車排ガス浄化部品、化学工業を進展させる産業用機器、エレクトロニクスの発展を支える精密機器などを生み出し、エネルギー、エコロジー、エレクトロニクスの分野の発展に貢献しています。独自のセラミック技術を核にこれからも社会のニーズに応える先進のものづくりで、世界の発展を支えていきます。

1.2 サステナビリティへの取り組み

1.2.1 SDGs と提供価値

当社は創立以来、SDGs 的発想を持ち、セラミックスをキーに社会に新しい価値を提供してきました。当社グループの技術や製品には、SDGs に貢献しているものが数多くあり、独自のセラミック技術を生かしてサステナブルな社会の実現に向けた新しい価値を提供することができます。

目標	NSKグループの提供価値
真実をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> 適切な雇用を創出し、貧困を終わらせることに貢献します 気候変動対策により災害を軽減します
前向きなゼロに	<ul style="list-style-type: none"> 日本ガイシの製品がつくる社会インフラは、雇用の機会への平等なアクセスを確保します
すべての人に健康と福祉を	<ul style="list-style-type: none"> GNV エアを用いた高出力・高効率な半導体レーザーは、超高圧水銀ランプの代替として水銀の使用を減らします 紫外LEDに変わるマイクロレンズは、水や空気の殺菌に使われる紫外線光源のLED化を進め水銀の使用を減らします 自動車排ガス浄化用セラミックスは排ガスをクリーンにします
質の高い教育をみんなに	<ul style="list-style-type: none"> 適切な雇用の創出により、教育への平等なアクセスを得られるようになります 宿舍提供や奨学金支給を通じ、留学生の学びの機会を支援します
ジェンダー平等を実現しよう	<ul style="list-style-type: none"> 日本ガイシの製品がつくる社会インフラは、女性の能力強化を推進します 女性の参画および平等なリーダーシップの機会を確保します
安全な水とトイレを世界中に	<ul style="list-style-type: none"> セラミック膜フィルターは、安全性の高い水を提供します セラミック膜フィルターは、排水を浄化します
エネルギーをみんなにそしてクリーンに	<ul style="list-style-type: none"> がいしは、電力の安定供給に欠かせないものです NAS電池は、再生可能エネルギーの安定供給を実現します 自動車排ガス浄化用セラミックスは排ガスをクリーンにし、化石燃料のクリーンな利用を実現します
働きがいも経済成長も	<ul style="list-style-type: none"> 適切な雇用を創出し、従業員に働きがいのある職場を提供し、経済成長に寄与します
産業と技術革新の基盤をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> 薄型リチウムイオン二次電池は、IoT時代を電源供給で支えます 電子・電気機器用セラミックスは、安価で普遍的な情報通信技術を支えます 半導体製造装置用セラミックスは、生活の基盤となる半導体生産を支えます 金庫製品は、携帯電話や、自動車、産業機器など生活を支える機器に幅広く活用されています
人や国の不平等をなくそう	<ul style="list-style-type: none"> 差別行為の発生を防止し、違反行為があった場合には迅速に適切な対応をとります
住み続けられるまちづくりを	<ul style="list-style-type: none"> NAS電池は、都市のエネルギーマネジメントを革新し、持続可能な都市をつくれます
つくる責任と消費責任	<ul style="list-style-type: none"> セラミックスの原料となる天然資源を効率的に利用します
気候変動に具体的な対策を	<ul style="list-style-type: none"> NAS電池は、再生可能エネルギーの安定供給を実現し、気候変動対策に貢献します
海の豊かさを守ろう	<ul style="list-style-type: none"> セラミック膜フィルターは、排水を浄化し、海洋汚染を防止します
陸の豊かさを守ろう	<ul style="list-style-type: none"> 社有地の生物多様性保全を進めています
平和と公正をすべての人に	<ul style="list-style-type: none"> 各国、地域の法令やルールを守り、国際間の取り決めに尊重してコンプライアンスを徹底します
パートナーシップで目標を達成しよう	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進します

1.2.2 NGKグループビジョン Road to 2050

今後もサステナビリティへ取り組む理念を大切に、変革の時代の社会課題の解決に貢献し続けていくため、2021年4月に中長期ビジョンを策定いたしました。2050年の未来社会を見据え、カーボンニュートラルの実現とデジタル社会への爆発的進化という大きな流れを発展機会と捉え、①ESG経営の推進、②収益力向上、③研究開発への注力、④商品開花への注力、⑤DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進の5つの変革に取り組み、「Surprising Ceramics.」をスローガンに当社独自のセラミック技術を活かし、「第三の創業」に向けて事業構成の転換を図っていくものです。

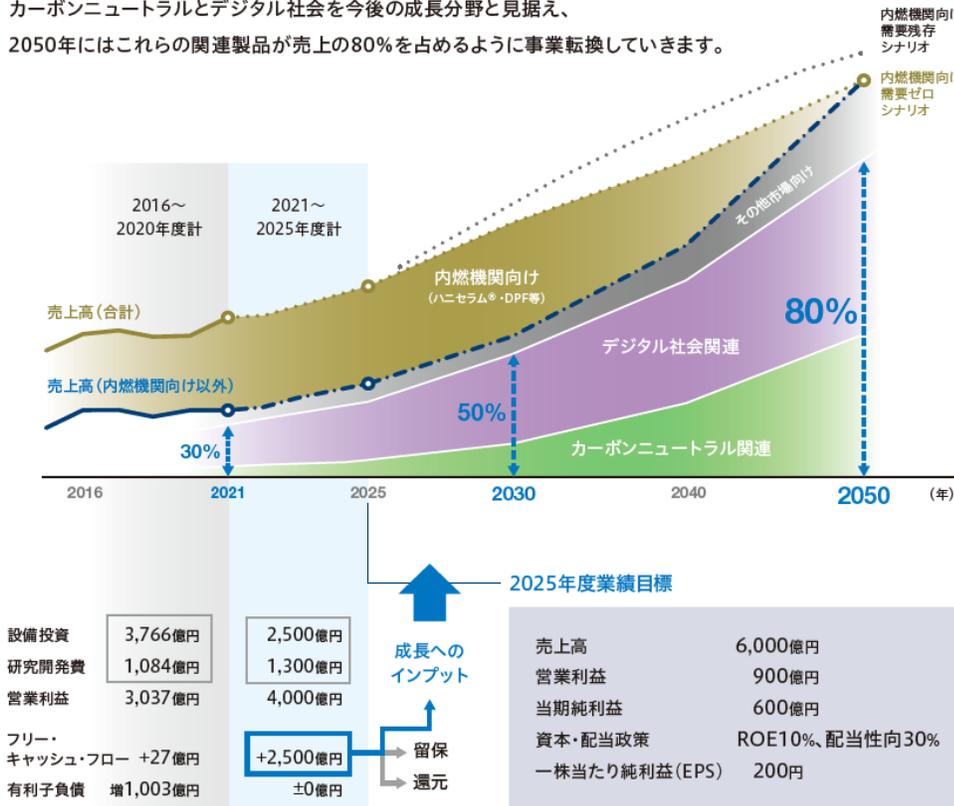
自然環境と人間が共生する「カーボンニュートラル」、安全で便利・快適で健康に暮らせる「デジタル社会」関連を注力分野と位置付け、これらの関連製品が2050年には当社売上の80%を占めるように事業展開していきます。10年間で総額3,000億円の研究開発費を確保し、その80%を両分野に配分する予定です。通過点となる2030年の目標として、新規事業の売上高1,000億円を実現する「New Value 1000」を掲げました。将来有望な開発テーマに重点的に経営資源を投じ、新製品・新規事業を創出していきます。

NGKグループビジョン Road to 2050

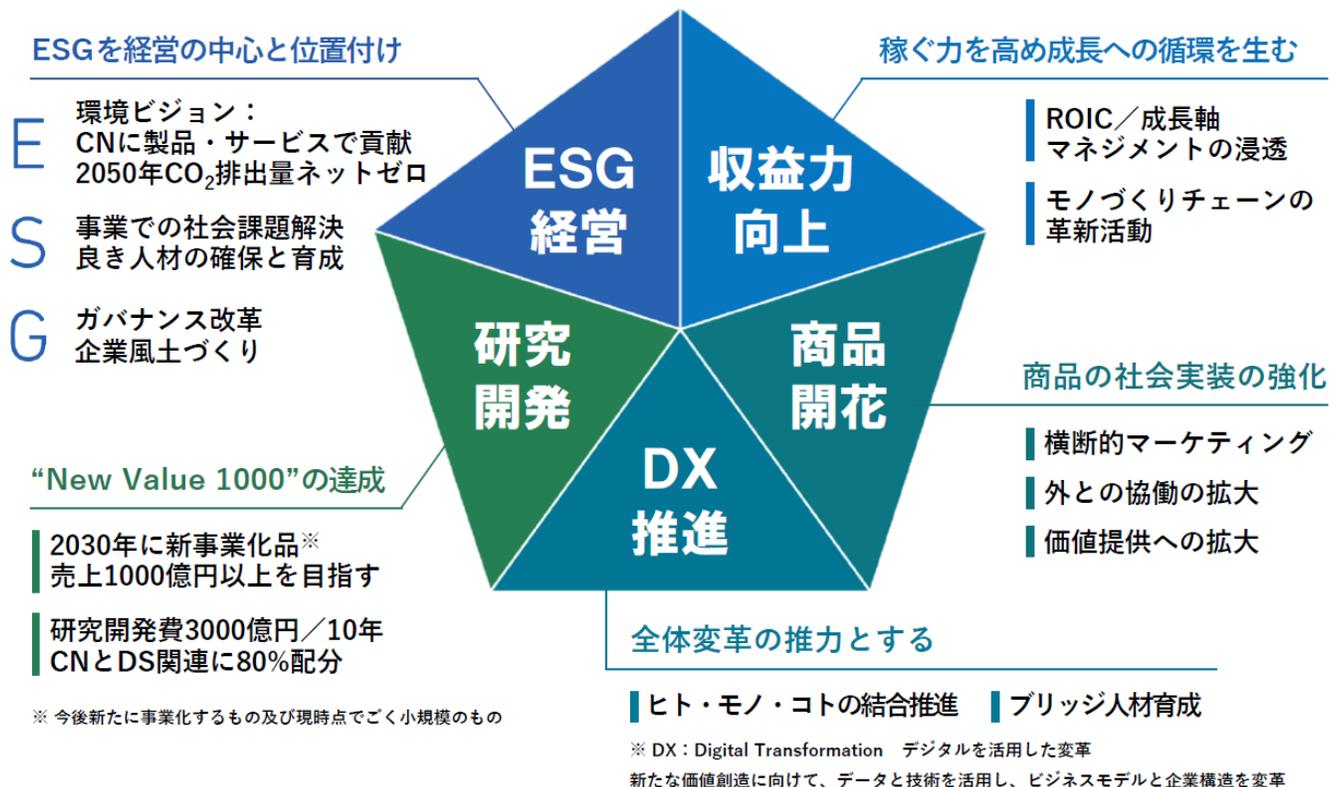
2050 CN/DS 関連を売上高の80%に

カーボンニュートラル デジタル社会

カーボンニュートラルとデジタル社会を今後の成長分野と見据え、2050年にはこれらの関連製品が売上の80%を占めるように事業転換していきます。



ありたい姿を実現するためになすべきこと



1.3 環境への取り組み

1.3.1 環境基本方針

当社グループは、地球環境の保全を人類共通の重要課題と認識し、環境と調和した企業活動を推進するため、1996年4月に環境基本方針を制定しました。そして、2021年4月に公表した環境ビジョンに基づき、「自然と人間の共生」を目指して、カーボンニュートラル、循環型社会、自然との共生への寄与を骨子とした取り組みを推進します。この基本方針の下、事業活動に伴う環境負荷の低減を図るとともに、環境保全に資する製品や技術の開発を通じて地球環境の保全に貢献していきます。

環境行動指針

1. 環境貢献製品・低環境負荷製品の開発・設計・製造に努めます。
2. 事業活動に伴い生じる環境負荷の低減に取り組みます。
デザインレビューなどにおいて事業活動に伴う環境影響を科学的に調査・評価し、
 - プロセス、設備の省エネ対策・再エネ利用の拡大を推進し、CO₂発生量の抑制に取り組みます。
 - 省資源、リサイクルを推進し、副産物の発生抑制に取り組みます。
 - 水資源のリスクを管理し、事業活動での水資源の有効活用に努めます。
 - 化学物質の適正使用、適正管理を通して有害物質のリスク低減に努めます。
 - 環境に配慮した材料・部品・製品・設備を優先的に調達・購入するとともに、取引先との協力関係も強化していきます。
3. グローバルな視点での環境管理体制を充実していくとともに、環境負荷の継続的な改善を行います。
4. 環境に関する法律、条令、その他要求事項を遵守するだけでなく自主基準を設定し、環境保全のレベルアップに努めます。
5. 環境に関する情報は適時外部に提供し、すべての利害関係者と対話を重ねます。社会貢献活動を積極的に展開していきます。また、従業員の環境意識の向上を図るため、教育、広報活動を行います。

1.3.2 NGKグループ環境ビジョン

当社グループは、2050年を見据えた「NGKグループビジョン Road to 2050」の中でも、ESG経営をビジョン実現のためになすべき変革のひとつに掲げ、このESG経営のE(環境)の方針として「NGKグループ環境ビジョン」を策定しています。事業活動を通じて、社会の要請である「カーボンニュートラル」「循環型社会」「自然との共生」の実現に寄与することを定めています。

■カーボンニュートラルへ

カーボンニュートラル社会の実現に資する製品とサービスを開発・提供するとともに、グループの事業活動にも適用することで、2050年までにCO₂排出量ネットゼロを目指します。

■循環型社会へ

天然資源の使用量を抑制し、資源効率の高い製品を開発・提供することで、循環型社会の実現に貢献します。

■自然との共生へ

生態系への環境負荷を最小限に抑制するとともに、啓発活動を通じて一人ひとりの意識を高め、自然との共生を図ります。

環境ビジョン実現のための戦略は以下の4つです。

戦略1:カーボンニュートラル(CN)関連製品・サービスの開発と提供

カーボンニュートラル関連の既存製品に加えて、開発品の製品化やNAS®電池を活用した再エネ供給事業などのサービスを社会に提供します。

戦略2:トップダウンでの省エネ強化

従来から取り組んでいる省エネ活動をさらに強化し、高効率設備の導入やエネルギーの運用改善などに取り組みます。

戦略3:技術イノベーションの推進

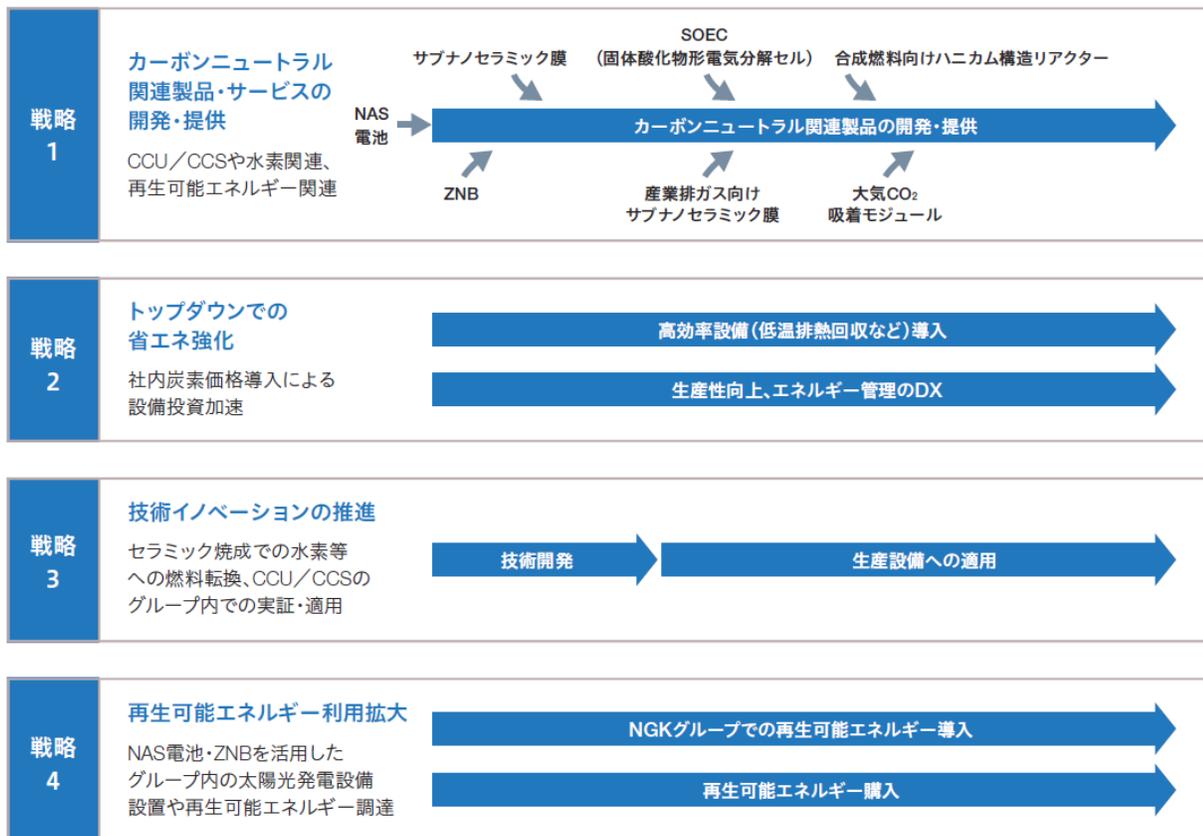
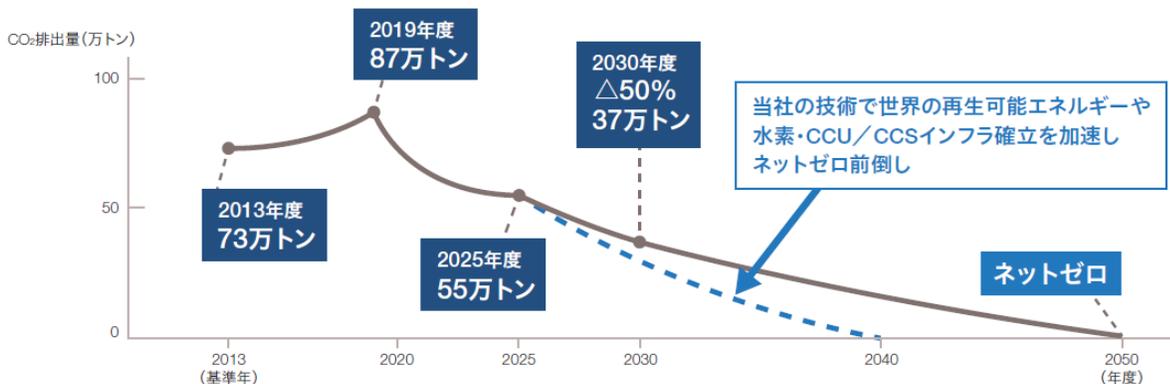
セラミックスの焼成工程では燃料由来のCO₂を排出していますが、水素やアンモニアなどへの燃料転換を進め、化石燃料フリー化を目指します。

戦略4:再生可能エネルギー利用の拡大

国内外でさまざまなスキームでの再生可能エネルギー調達を進めるとともに、NGKグループ内の製造拠点に太陽光発電設備(PV)を設置し、NAS®電池や亜鉛二次電池(ZNB®)を併設してデマンドコントロールします。これをモデルケースとしてNGKグループが参画する再生可能エネルギー供給ビジネスに活かすとともに、将来グループで使用するすべての電力を再生可能エネルギーで賄えるように取り組んでいきます。

1.3.3 カーボンニュートラル戦略ロードマップ

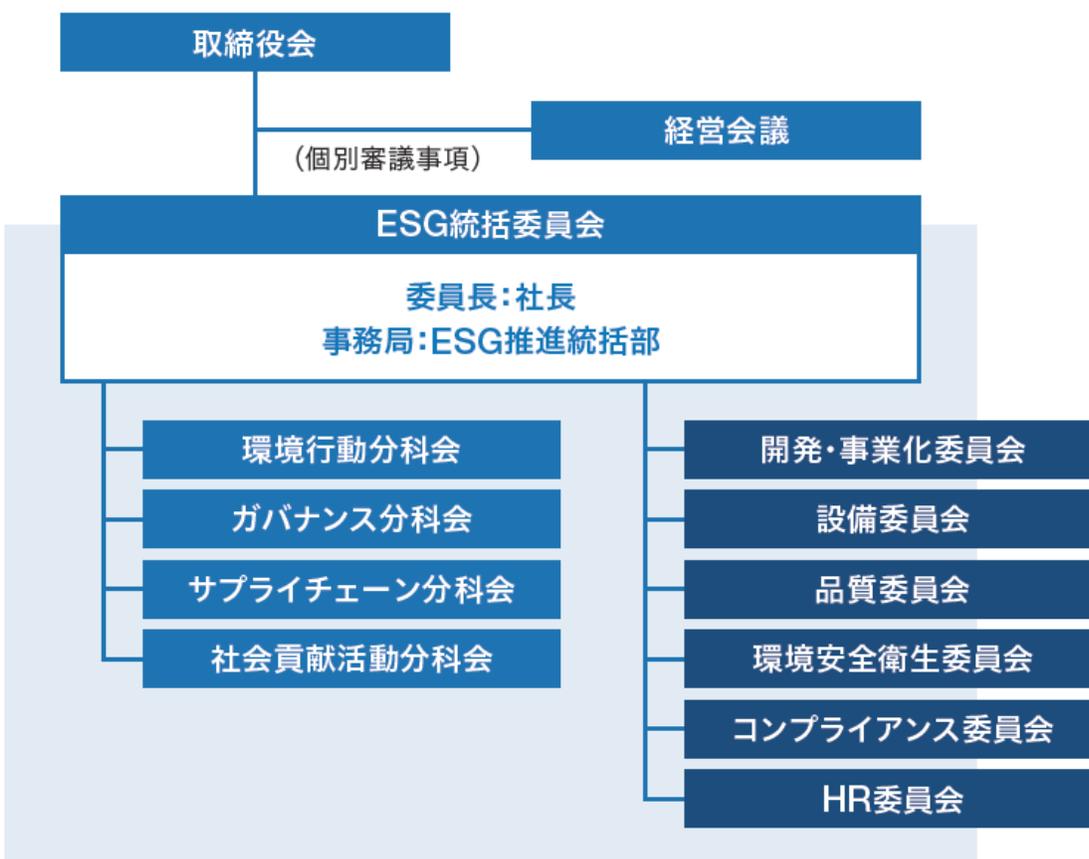
環境ビジョンのテーマの「カーボンニュートラル」については、目標実現のために「カーボンニュートラル戦略ロードマップ」を策定しています。2050年の目標をグループ全体のCO₂排出量ネットゼロとし、そこに至るまでのマイルストーン目標として、2025年に排出量55万トン(基準年2013年度比25%削減)、2030年度に同37万トン(同50%削減)を設定しています。また、カーボンニュートラル社会の実現を目指し、関連製品・サービスの開発と普及に注力していきます。今後、水素・CCU/CCS関連の技術開発を推進することで、ネットゼロ達成の前倒しを検討します。



1.4 ESG 推進体制

当社では環境(E)・社会(S)・ガバナンス(G)に関する議論を一元化するために、2019年度に社長を議長とする ESG 会議を設置し、グループ理念に基づき ESG の観点から経営課題を審議しています。2020年度は各委員会の機能の中でも ESG 課題を議論しています。また、ESG(環境・社会・ガバナンス)及び SDGs(持続可能な開発目標)に関する当社グループの活動を横断的に取扱い、その情報発信を強化するため、2021年4月に「ESG推進統括部」を新設しました。その後、2022年4月には、従前の「ESG 会議」を、社長を委員長とする「ESG 統括委員会」に改め、経営レベルで ESG/SDGs の要素を含む当社グループのサステナビリティ課題の取り扱いを強化し、取締役会がその活動を適切に監督する体制としました。

ESG推進体制図



1.5 外部イニシアティブへの参加

当社は国連が提唱する企業の自主行動原則「グローバル・コンパクト」に署名しています。国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」などを指標に、事業活動を通じて幅広く社会課題の解決に貢献することが、重要な社会的責任であると考えます。

また当社では、パリ協定以降の国や企業の動向に対して、従来以上の取り組みを検討する必要があると認識していました。まずは気候変動に対するリスクと機会の分析を行い、削減計画につなげるTCFDの取り組みに賛同することが重要との経営層の判断から、2020年2月TCFDに賛同することを表明し、2022年4月より、TCFDの「ガバナンス」「戦略」「リスクマネジメント」「指標と目標」の4項目に沿ったシナリオ分析結果に関する情報を当社ウェブサイトへ公表を開始しております。

当社の設定する温室効果ガス削減目標が、パリ協定の1.5°C目標と整合する水準であることを証明するために、SBTi (Science Based Targets initiative)の認定取得の申請を2022年4月に行っております。

1.6 グリーンファイナンス実行の意義

当社の技術に根差した高品質な製品を通じ、環境と人間が共生できる未来の実現を目指す、という価値創造を行うべく、「カーボンニュートラル」「循環型社会」「自然との共生」の実現に寄与する製品とサービスの開発・提供、及び製造プロセスの確立のための資金をグリーンファイナンスにて調達します。

2. グリーンファイナンス・フレームワーク

本フレームワークは、国際資本市場協会(ICMA)が定めるグリーンボンド原則(GBP)2021 及び環境省のグリーンボンドガイドライン(2022年版)、ローンマーケット協会(LMA)、アジア太平洋地域ローンマーケット協会(APLMA)およびローンシンジケーション・トレーディング協会(LSTA)が定めるグリーンローン原則(GLP)2023、環境省のグリーンローンガイドライン(2022年版)に適合しており、以下4つの柱について定めています。

1. 調達資金の用途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

当社は、このフレームワークに基づき、グリーンボンドの発行またはグリーンローンの調達をしております。

2.1 調達資金の用途

当社により発行されるグリーンボンドの発行総額またはグリーンローンでの調達総額と同額が新規ファイナンスまたはリファイナンスとして、新規または既存の適格プロジェクトへ充当されます。なお、既存プロジェクトへの充当の場合は、グリーンボンドの発行またはグリーンローンでの調達から2年以内に実施されたものとします。

適格プロジェクトは、当社及び当社グループ会社により実施される以下の適格クライテリアを満たす設備投資や費用とします。

適格プロジェクト

A. 環境効果のある製品・サービスの提供

適格事業区分	ICMA GBP カテゴリー	適格クライテリアとプロジェクト例	SDGs
電池関連	環境適応製品、環境に配慮した生産技術及びプロセス及び/又は、認証を受けた高環境効率製品	<p>再生可能エネルギー利用促進やスマートグリッド構築のために高度化する各種蓄電・発電ニーズに応える電池の提供のための研究開発や製造</p> <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> > NAS®電池: 発電量が不安定な再生可能エネルギーの電力需給調整のために必要とされる蓄電池。大容量、高エネルギー密度、長寿命を特徴とし、長時間にわたる高出力の電力供給を可能にする。電力負荷平準によるピークカット、再生可能エネルギーの安定化に役立ち、節電対策やエネルギーコスト削減、環境負荷低減に貢献する。研究開発においては、蓄電サービスの検討等、ビジネスモデル構築に取り組むと共に、コスト競争力向上を目指す。 > 亜鉛二次電池 ZNB®: 屋内設置に適した高い安全性と高容量を実現した蓄電池(二次電池)。エネルギー密度が高くコンパクトに設置でき、常温での電池動作が可能なおうえ、電解液に不燃性の水溶液を使用していることから内部発火や熱暴走するリスクがないため、安全性が高い。早期の市場投入と販路・供給体制の構築を目指す。(研究開発) > オールセラミックス電池(全固体電池): 車載用や定置用として世界中で開発が進められている次世代蓄電池(二次電池)。電解質に硫化物を使うタイプが実用化に近づいているが、硫化物は空気中の水分と反応すると猛毒の硫化水素が発生す 	

		<p>るため、当社では、より安全な酸化物系セラミックスを使った「オールセラミックス電池」を開発中。酸化物系セラミックス電解質はイオン伝導性が低いため、世界でもあまり開発事例はないが、当社 EnerCera®の半固体電池の技術を発展させ、NGKグループならではの高性能かつ安全な電池を目指す。(研究開発)</p>	
<p>次世代パワー半導体関連</p>	<p>環境適応製品、環境に配慮した生産技術及びプロセス及び/又は、認証を受けた高環境効率製品</p>	<p>モーター制御など電力の制御や変換を行うパワー半導体に関し、従来のシリコン(Si)半導体ではなく、SiC半導体やGaN半導体などの消費電力の大幅な削減が可能な次世代パワー半導体を実装し、カーボンニュートラル社会を実現するために必要な素材、部品の提供のための研究開発</p> <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> > 窒化ガリウム(GaN)ウエハー: 電力制御・変換時のロスを従来のシリコン半導体より大幅に小さくでき、消費電力の大幅な削減ができる窒化ガリウム(GaN)半導体材料を用いたウエハー(基板)の研究開発。当社の高品質ウエハー(基板)を用いることによりパワー半導体メーカーはより高性能な窒化ガリウム(GaN)製パワー半導体を製造できる。 > 絶縁放熱回路基板: 信頼性・熱伝導性に優れた車載・産業機器向けパワーモジュール(複数のパワー半導体をまとめてパッケージ化した部品)用のセラミック回路基板の研究開発。自動車の電動化により中長期での需要拡大を見込む。 	
<p>CCU/CCS及び水素/アンモニア関連</p>	<p>環境適応製品、環境に配慮した生産技術及びプロセス及び/又は、認証を受けた高環境効率製品</p>	<p>CO₂の回収、貯留、有効利用を行うための装置に不可欠な技術、製品及び水素/アンモニア利用促進のための技術、製品の研究開発</p> <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> > CO₂分離膜: CO₂を分子レベルで分離できる大型セラミック膜。天然ガスや原油随伴ガスからCO₂を分離・回収し、大気放出されるCO₂の削減に貢献。この技術を発展させ、工場等から排出される産業排ガス等からCO₂を分離する取り組みも開始済み。(研究開発) > SOEC(固体酸化物形電気分解セル): イオン伝導性セラミックスを活用し、CO₂や水から高効率で燃料・原料を合成するシステムに不可欠な装置を開発する。 > 合成燃料向けハニカム構造リアクター: 大型セラミックス押出技術と分離膜技術を活用し、回収CO₂から燃料・原料合成を高効率に行える装置(又はシステム)を開発する。 > ダイレクト・エア・キャプチャー(DAC)用セラミック基材: DAC(Direct Air Capture)とは、大気中に含まれるCO₂を直接吸着・吸収し回収する技術。自動車排ガス浄化用セラミックスで培ったセラミック製ハニカム構造体の技術を応用し、「コンパクトかつ表面積が大きい」「低圧力損失」などの特長をもつDAC向けハニカム構造吸着材を開発する。 	

B. 自社の事業活動・生産活動におけるカーボンニュートラルへの取り組み

適格事業区分	ICMA GBP カテゴリー	適格クライテリアとプロジェクト例	SDGs
クリーンエネルギーの利活用 関連	再生可能エネルギー	<p>自社工場での生産活動への適用を目指した、カーボンニュートラル関連技術、設備の開発・導入。実証試験・試験的運用を含む</p> <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> > 水素・アンモニアを燃料とするセラミックス焼成方法の開発 > 水素・アンモニアを燃料とするセラミック焼成窯の実証試験 	
		<p>自社の事業活動にて利用する電力のクリーンエネルギーへの転換のための設備導入や取り組み</p> <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> > NAS®電池、ZNB®を活用した太陽光発電設備の導入 > 太陽光発電設備の導入 > 再生可能エネルギー由来電力の購入 	
製造プロセスの 省エネ化関連	エネルギー効率	<p>自社工場での生産活動におけるエネルギー効率の向上のための高効率設備の導入や取り組み</p> <p><プロジェクト例></p> <ul style="list-style-type: none"> > カーボンニュートラル達成のために、十分な省エネ水準を満たす高効率設備への投資 > 省エネルギーのための新プロセスの研究開発 	

2.2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

本グリーンファイナンスの調達資金が充当されるプロジェクトは、当社の ESG 推進統括部が、2.1 調達資金の用途にて定める適格クライテリアへの適合状況に基づいて、対象候補を特定します。特定された対象候補事業について、当社グループの環境基本方針及び環境ビジョンへの整合性の観点から、当社の ESG 推進統括部担当執行役員が最終決定を行います。その結果については、当社の代表取締役社長を委員長とする ESG 統括委員会にて報告されます。

なお、個々の適格候補プロジェクトについて、事案の性質から必要性が認められる場合には、環境・社会的リスク低減のため以下について対応していることを確認します。

- 国もしくは事業実施の所在地の地方自治体にて求められる環境関連法令等の遵守と、必要に応じた環境への影響調査の実施
- 事業実施にあたり地域住民への十分な説明の実施
- 当社グループの地球環境保全活動に対する基本理念・基本方針及び調達の基本方針等のポリシーに沿った資材調達、環境汚染の防止、労働環境・人権への配慮の実施

2.3 調達資金の管理

グリーンファイナンスとして調達した資金については、当社の財務部が適格プロジェクトへの充当及び管理を行います。財務部は、本フレームワークにて発行されたグリーンボンドの発行額またはグリーンローンでの調達額と同額が適格プロジェクトのいずれかに充当されるよう、償還又は満期までの間、年度毎に内部会計システムを用いて、追跡、管理します。

グリーンファイナンスによる調達資金が適格プロジェクトに充当されるまでの間の未充当資金については、現金または現金同等物にて運用し、調達から2年程度の間には充当を完了する予定です。(十分な適格プロジェクトがない場合を含む。)

2.4 レポーティング

当社は、適格プロジェクトへの充当状況ならびに環境への効果を、年次で、当社ウェブサイト、統合報告書のいずれかまたは両方で報告します。なお、融資の場合については融資人と関係者に直接報告することも選択できるものとします。各グリーンボンドまたは各グリーンローンについての初回レポートは、発行もしくは調達から1年以内に公表する予定です。

2.4.1 資金充当状況レポーティング

グリーンファイナンスにて調達された資金が全額充当されるまでの間、年次で、調達資金の適格プロジェクトへの充当状況に関する以下の項目について、実務上可能な範囲でレポートする予定です。

- 調達資金の適格プロジェクトへの充当額合計
- 適格事業区分別での充当額と未充当額
- 未充当額がある場合は、充当予定時期
- 新規ファイナンスとリファイナンスの割合

なお、調達資金の金額が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

2.4.2 インパクトレポーティング

グリーンボンドの発行残高またはグリーンローンでの調達残高がある限り、適格プロジェクトによる環境への効果に関する以下の項目について、年次にて、実務上可能な範囲でレポートする予定です。また、大きな状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

適格プロジェクト

A. 環境効果のある製品・サービスの提供

適格事業区分	ICMA GBP カテゴリー	インパクトレポーティング項目(例)
電池関連	環境適応製品、環境に配慮した生産技術及びプロセス及び/又は、認証を受けた高環境効率製品	<ul style="list-style-type: none"> > 技術・製品の概要 > 研究開発の場合、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発計画の概要と進捗状況 ・ 研究開発対象事業の概要と目指す効果についての説明(利用目的、期待される付加的効果、見込み蓄電容量、見込みエネルギー密度、寿命等)
次世代パワー半導体関連	環境適応製品、環境に配慮した生産技術及びプロセス及び/又は、認証を受けた高環境効率製品	<ul style="list-style-type: none"> > 技術・製品の概要 > 研究開発の場合、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発計画の概要と進捗状況 ・ 研究開発対象事業の概要と目指す効果についての説明(想定利用目的や製品等)
CCU/CCS及び水素/アンモニア関連	環境適応製品、環境に配慮した生産技術及びプロセス及び/又は、認証を受けた高環境効率製品	<ul style="list-style-type: none"> > 技術・製品の概要 > 研究開発の場合、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究開発計画の概要と進捗状況 ・ 研究開発対象事業の概要と目指す効果についての説明(利用目的、想定最終製品や利用先の装置、期待される付加的効果等)

B. 自社の事業活動・生産活動におけるカーボンニュートラルへの取り組み

適格事業区分	ICMA GBP カテゴリー	インパクトレポーティング項目(例)
クリーンエネルギーの利活用関連	再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> > 設備の概要 > 製造工程での水素利用による CO₂ 排出削減量 > NAS[®]電池を活用した太陽光発電設備の導入数、発電容量 > 再生可能エネルギー由来電力の購入量 > 再生可能エネルギー利用による CO₂ 排出削減量
製造プロセスの省エネ化関連	エネルギー効率	<ul style="list-style-type: none"> > 導入した設備の概要 > エネルギー効率向上のための取り組み概要 > 省エネ状況(消費電力削減量/割合)